



おかじまのぶ
岡島政信 議員

Masanobu Okajima



Q. タブレット端末を増やす考えは A. 学習効率や効果を検証する

今年度各学校にタブレット端末が50台ずつ設置された。今後の考えを尋ねる。

Q タブレット端末についての取り決めは。

A 教育委員会事務局は、児童生徒向けにタブレットの利用ルール（破損及び紛失、トラブル防止の内容など）を作成し、周知している。各学校でも、これを基に学校の事情に合わせた利用ルールを設けている。

Q 利用率向上に向けて、意見交換する機会は。

A 教育委員会事務局は、教育委員会と各学校は毎月1回ICT活用・推進に向けた定例会や、定期的なICT教育推進委員会を開いている。その中で活用事例の

情報を交換し、また児童生徒の反応などの意見交換もし、活用について共有を図っている。

Q タブレット端末を増やす考えは。

A 教育委員会事務局は、実践事例の蓄積状況をみて、学習効率や効果を検証しながら、タブレット端末を増やしていくか検討していく。



▲タブレットを使った授業の様子

Q. 翻訳する言語を増やしては

A. 居住状況に応じて検討していく

Q 大きく変動のあつた国、地域は。

A 総務部長
ベトナム国籍の方で、平成28年の30人から118人へ88人増加した。

Q 今後、外国の方は増加すると考える。自動翻訳機能に対応する言語を増やしていく考えは。

A 総務部長
ホームページの自動翻訳機能は、外国人住民の方の居住状況をみて、対応する言語を検討していく。

Q 豊山町における外国人の在籍状況は。

A 総務部長
平成31年2月26日現在、住民基本台帳上では、25の国および地域の方々となっている。